

評時長會

新報の休刊を前に
14年間のご協力に感謝



「支援者の集い」を在京者の元坪田の「おきみくら」さんで開催

山田貴久先生
(現・理事長)
のご指導には
言い尽くせな

ました。
さらに本紙に寄稿され
た皆さん、マスコミ関係
者及び東京都・三宅支庁、

向上高校の先生、生徒を含め支援を頂きました。特に、

を設けての支援など、復興・再生のために日夜「行動する専門家」として大いに力を注いでいただき

空き家となつ
ている留守宅
のお掃除と庭
の草取りなど

火山灰で枯れた木々を箸や木炭利用など復興のための試作活動、三宅高校卒業生の進学受け入れ枠

わたった多くの
皆さんや在京
者宅の訪問活
動、在京者の

行当初から印刷、ホーム
ページ立上げと、魚介類
を火山灰で加工する「灰
干し」商品開発の指導、

川島の私立向上
新聞委員会の卒
る新組織「D T
編集作業に携

い感謝の気持ちでいっぱいです。

また、大妻女子大学院
教授の千川剛史先生が発

本紙「三宅島新報」は、1月1日発行の次号(第75号)をもって休刊とすることを前号でお知らせいたしました。三宅島ふるさと再生ネットワークを代表して、ここで、これまでを振り返りながら皆さまに感謝の意を表したいと存じます。

在京者の皆さん、在島
島民の皆さん、そしてこ

た、神奈川県私立向上
高等学校新聞委員会の卒

い感謝の気持ちでいっぱい
です。

力を続けることができた。

本紙は、2006年1月1日から発行。現在の

櫻田村長をはじめとする
三宅村行政機関、発送な
ど事務局、ご寄付を頂い
た皆さまのご協力により
三宅島の再生・復興支援
と災害を風化させない努

三宅島島民連絡会発行の「れんらくかいニュース」と「三宅島新報」の合本を発行を考えていますので、引き続きご協力をお願いします。

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒173-0005
東京都板橋区仲宿2-1
TEL 090-4922-0798
FAX 03-3964-4065
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

8月24日、25日に山田先生をはじめ6名の
本紙DTPA編集員の
皆さんが来島。取材に
ご協力いただいた皆さ
まに、感謝を申し上げ
ます。

2面、3面に取材内容を紹介。全島避難中から三宅島の噴火災害に注目して、向上高校の学校新聞の取材からお付き合いを頂いた皆さんが、現在の三宅島をどのように感じたか記事を楽しみにしています。

宿泊も本紙 2016 年 10 月 1 日、63 号で紹介した伊藤奨さんオーナーの「島屋」にご厄介になりました。

この様な声を聴くたびに、心を重くしています。しかし、ホームページや重大な事態が発生したときには、これまでのネットワークを生かして発信の努力をいたします。

今後は、全島避難中の

と発信の役割を果たしました。

また、次々と発生する自然災害地被災者との連帯、経験交流などにも微力ながら役立ってきたのです。

心より感謝をこめて：

迫力の風景多くの人に



ジオスポットの一つであるメガネ岩

来島者 13年以降増加傾向

火口周辺立ち入り可でさらに…

2000年噴火前まで年間約8万人だった三宅島への観光客は、全島避難を経た05年以後減少したものの近年は増加傾向で、昨年度は約3万6千人となった。島への観光

客は、釣りやダイビング、バードウォッチングなど趣味性の高いS・I・T型(Special Interest Tour: 特別な目的に絞った旅行)が多いが、昨今では連休の多さや働き方改革等による長期の休日取

『三宅島新報』の編集を担当するDTPAのメンバーが、今夏三宅島を訪ねた。島では、火山活動の痕跡を間近に見ることができるジオスポットをはじめ、旧坪田中学校を利用した日本最大級のクライミング施設、さらにはTVアニメの舞台めぐりなど、新たな形での観光名所も生まれている。来島者は全島避難を経て一時落ち込んだものの、2013年以降着実にその数を伸ばしている。

「20年サイクルにとらわれず」

火山活動安定しているけれど…

前回の噴火から19年を迎えた雄山の火山活動について三宅島火山防災連絡事務所長の小西弥市さんは、

「2016年6月以降、火山がス放出力は1日数十トン以下で推移しているなど、現在、居住地域に被害が及ぶレベルの噴火に繋がるデータは確認されていない」と話した。その一方で小西さんは、「次の噴火に向けた準備段階に入っているの

「島ならではの観光を」

三宅村村長 櫻田昭正



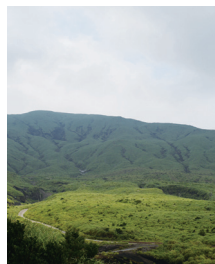
平成12年の噴火以降、立ち入りが規制されてきた雄山火口付近に観光客の方々が足を踏み入れることができるようになってきました。立入に

際しては、周辺の自然に配慮しながら安全に利用していただくためのルールを定めた「東京都版エコツーリズム」を導入し、東京都自然ガイドの同行を義務付けるほか、入山人数や時間の制限などを行うこととなります。村としても自然を生かした観光振興策の一つとして、新たな観光資源に大

いに期待しているところ。現在、エンデューロレースやOWS(オープンウォータースイミング)など三宅島の大自然を満喫していただけるイベントに取り組んでいるところですが、今後もなお一層の自然を生かした観光に取り組んでまいります。

得が可能となったことから、火山景観地を巡るなど三宅島の大自然を体感するために訪れる家族連れの観光客が増えているようだ。三宅島観光協会事務局

長の谷井重夫さんは、「来年度から、火山の防災学習を目的とした雄山火口周辺への入山が計画されており、三宅島が有する自然環境の利用を促進していきたい」と話した。



噴火から19年の雄山

も事実」とし、「20年に一度の噴火という歴史は、数千年に及ぶ島の歴史から見ればごく一部。20年のサイクルに縛られず、柔軟に火山と向き合う必要がある」と話した。

アニメ『つうかあ』

サイドカーレース題材に

三宅島を舞台にしたTVアニメ『つうかあ』は、オートバイのサイドカーレースに取り組む女子高生を描いた作品である。作中では島の周回道路を封鎖したレースが行われるが、これはかつて石原都知事(当時)が構想した公道周回レースがモチーフとなっている。

また、作品のキービジュアルに大路池が描かれているほか、迷子椎などの名所も登場し、いわゆる聖地巡礼に訪れる人も増えているという。

DTPA 三宅島訪島記

ぜひ観てほしい

25カ所のジオスポート

噴火の跡 驚きの景観

三宅島には全25カ所のジオスポートがある。「ジオ」とは地球や地上を意味する言葉で、過去の噴火跡などの見学を通じて生きている火山の驚異や



溶岩に埋まった旧阿古小中学校

美しい景観を目の当たりにできる。その一つ、神着地区の椎取神社では、2000年噴火の影響で上部だけを残して埋没した鳥居が残されている。そこから1.5kmほど離れた坪田地区の三七山展望台からは、1940年に噴火を起こした「ひょうたん山」と62年噴火で生じ

た「三七山」を見ることが出来る。また、阿古の火山体験遊歩道は、83年噴火により集落をのみ込んだ溶岩流の上に作られた遊歩道だ。校舎の二階部分まで溶岩に埋まってしまった旧阿古小中学校の校舎を見ることが出来る。



大路池は2500年前の噴火の火口湖

私は今回の取材で初めて三宅島を訪れた。島に着いて頻りに噴火が起きていることを実感した。噴火後、未だ立ち入ることができない牧場や溶岩に埋もれた阿古地区の元集落。そのような場所も島民にとっては日常であり、噴火を受け入れながら生きてきた歴史

受け入れてきた歴史

活性化に繋がるように

取材後記
感じる事ができた。前回の噴火から19年。木々が枯れ果ていたとは思えないくらいに緑あふれる島は、観光客が増えてきているという。本土から離れ、時間がゆっくりと流れる島を訪れる人が今後も増え続けることで、島がさらに活性化してほしいと思った。
(村治)

お土産にもおやつにも

牛乳煎餅 その味を守って



島民にも愛される味

三宅島のお土産の定番といえば牛乳煎餅。1955年に島の名産だった牛乳を使ったお土産として岡太楼本舗

が生産を始めたもの。2000年噴火で牛乳を生産する村営牧場が閉鎖されて存続の危機となったが、島の銘菓を守るために三代目店長の平松勝憲さんが努力を重ねている。客層は幅広く、観光客だけでなく島民にも愛されている島の味だ。

長太郎池

熱帯魚やイソギンチャク間近に

島内に5つある海水浴場の中でも、噴火によって誕生したという歴史を持つのが坪田の長太郎池だ。



周囲が溶岩によって囲まれて池のような形状をしていることからこの名がつけられた。水深は浅く、イソギンチャクや熱帯魚などを間近に見ることが出来る。夏期はライフガードが常駐しており、子ども連れでも安心して利用できる。

アカコッコ館

バードウォッチングの聖地

坪田のアカコッコ館は島の自然を紹介する村営施設だ。この施設では島の代表的な鳥



であるアカコッコやメジロを中心によくの野鳥を観察することができ、多くのバードウォッチャーが訪れる。レンジャーの鈴木敏祥さんは「春先は当施設でバードウォッチングをするだけでなく、行き帰りの船で渡り鳥も観察できるのでおすすめです」と話していた。

ボルダリング

雨天時でも楽しめる施設を

坪田の村営三宅島レクリエーションセンターは、ルート壁面とボルダ―壁面



を有する日本最大級のクライミング施設だ。同施設は2011年6月に、新しい三宅島の魅力とするともに、雨の日でも観光客が立ち寄れる場所を、ということでも坪田中学校の体育館に造られた。利用料も一般500円と安い。

台風15号が残した爪痕

倉庫が飛ばされる被害も



台風15号の非住家の一部損壊被害対策も課題となる

重大被害をもたらした台風15号は、都島しよ部や千葉県など現在でも傷跡を残したままである。三宅村総務課防災危機管理係は、あくまでも中間的な結果で、まだ被害の詳細は調査中であるこ

9月に発生し、千葉県や都島しよ部に甚大な被害をもたらした台風15号は、三宅島にも大きな爪痕を残した。坪田地区では瞬間最大風速48・4m/sを観測し、倉庫が飛ばされたほか、家屋や公共施設などが一部損壊するといった被害が見られた。

とを前提として、9月18日現在の被災状況をまとめた。

① 人的被害	特になし
② 家屋被害	28棟
③ 民間住宅	14棟
④ アイ村営住宅	6棟
⑤ ウ村職員住宅	3棟

ご寄付者名

(令和元年5月1日～9月30日)

吉田信行様、光安千久子様、佐藤就之様

皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

【ご寄付受付先】

郵便振替口座

口座番号：00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

瞬間最大風速48・4m/s
危機管理係員の話を聞くと、最大瞬間風速は、8日坪田で48・4m/sで

⑤ 道路被害 島内全域で倒木、枝葉が散乱
⑥ 水道施設被害 なし
⑦ インフラ関係 N T T 光ケーブルの遮断による不通などの被害、現在復旧作業中

③ 公共施設被害 5棟
④ 教育施設被害 10箇所
⑤ 道路被害 8箇所

提言！



「権とり神社」の火山灰に埋まった鳥居と奥の旧社務所を2000年噴火跡の保存指定場所として囲い杭と縄で囲い、大切に保存することも教育と観光のために必要。ご検討を願う！

空の家を空にする。京者の皆さんも、近所の知人や行政、警察などに、どうか点検をしてみたい。

あつた。現在調査中だが阿古では倉庫が飛ばされるなどした。家屋被害は一部損壊で空き家の被害が見られる。8月28、29日に、島を車で一周してみると、道路はよく整備されている。ただ村道については、路上に古木の倒れたものや排水口のつまりがあったほか、農業用テントなどが被害に。

編集後記

今号では2、3面の特集の取材のために、私たちが三宅島を訪れました。その際には、普段の編集作業では気づけなかった島の魅力にふれることができました。次号をもって「三宅島新報」は休刊となつてしましますが、最後までしっかりと編集作業をさせていただきます。(D T P A 一同)

思う。神着の私の家では、古木2本が庭に倒れている。近所では、太いたみの木が割れてドスンと鳴り響き驚いた。珍しくテレビ台風情報が三宅島を報道しないので、不安だったとの声も。しかし、神津島58・1m、新島52・0m、大島47・1m。停電は島しよ地域9町村のうち三宅村と小笠原村を除く7町村でさらに大島、新島で全地域断水がつづいた。報道が大島・新島中心となつたのも頷ける。(佐藤)